

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成24年3月15日(2012.3.15)

【公開番号】特開2010-277064(P2010-277064A)

【公開日】平成22年12月9日(2010.12.9)

【年通号数】公開・登録公報2010-049

【出願番号】特願2009-241178(P2009-241178)

【国際特許分類】

G 02 B 27/22 (2006.01)

G 02 F 1/13 (2006.01)

G 09 G 3/36 (2006.01)

G 09 G 3/20 (2006.01)

【F I】

G 02 B 27/22

G 02 F 1/13 5 0 5

G 09 G 3/36

G 09 G 3/20 6 6 0 X

【誤訳訂正書】

【提出日】平成24年2月1日(2012.2.1)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0038

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0038】

図3Cは、図3Bに示す領域Cの液晶分子322aが電場を印加しない時の配列を図示したものである。図3Dは、図3Bに示す領域Cの液晶分子322aが電場を印加した時の配列を図示したものである。図3Bおよび図3Cを同時に参照すると、共通電極324bおよび制御電極326bに印加電圧を供給する前は、液晶分子が印加電場に影響されないため、全ての液晶分子は同じ方向(つまり、紙面に垂直な方向)に沿って配列される。また、液晶分子は複屈折性(birefringence)を有し、その実効屈折率は

【数1】

$$n_{\text{eff}}(\theta) = \sqrt{n_0(\theta)^2 + n_e(\theta)^2}$$

で示される(n_0 および n_e はそれぞれ液晶分子の正常屈折率(ordinary refractive index)および異常屈折率(extraordinary refractive index)である)。そのため、同じ方向で液晶分子322aに入射した光については、液晶分子322aの実効屈折率は全て同じである。このように、同じ方向の入射光は、異なる位置の液晶分子322aを通過した後、同じ屈折方向を有する。